



定刻になりましたので、それではワークショップのIIを始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは最初に、本ワークショップへわざわざ足をお運びいただきまして、ありがとうございます。このワークショップでは、動物園におけるエン

リッチメントの実際ということで、動物園に関しての話題について検討していきたいと思います。

私は、司会を務めさせていただきます東山動物園の上野です。よろしくお願いいたします。

最初に簡単ですが、エンリッチメントはどういうふうにかえれば良いのかということをお私の方から簡単に説明して、その後、メイソンさんにエンリッチメントの非常にきちんとした形での概念というものを、いろいろな事例を挙げてお話していただき、その後鈴木さんと堀さんに、動物園での実際のエンリッチメント作業というものについてお話していただくという形で進めていきたいです。

途中、それぞれの発表の後に、どうしてもそのときに聞いておきたいという質問にはお答えするようにしたいと思いますけれども、一つ一つで長い議論を続けてしまいますと時間が足りなくなってしまうから、最後に総合討論という形でまとめて議論をしていきたいです。ですので、それぞれの話を聞きながら、いろいろ問題を感じる、あるいは疑問を感じるということをおきちんとしていくような形で、最後に活発な議論をしていければと思います。ご協力よろしくお願いいたします。



【スライド1】

それでは最初に、簡単に動物園のエンリッチメントはどういうふうにかえられるのかということをお考えていきたいです。



【スライド2】

そもそも動物園というものを考えた場合には、30年前、40年前の、あるいはそれよりもっと昔の動物園と、今の動物園というものは大きく役割が変わってきました。それは、かつては動物を見せれば良いんだというふうな施設だったわけですね。娯楽ということが中心の施設だったわけですね。そういう意味で、日本では「人寄せパンダ」なんて言われるように、そういった珍しい動物を置けばいいという言葉なんかも生まれたように、そういった見せ物、言葉としては良くないかもしれないけれども、「見せ物小屋」といった位置づけで長いこと考えられてきたわけですね。しかし、今の動物園はそうではなくて、「自然への窓口」だと考えられているわけですね。

【スライド2】

じゃあ、その自然への窓口がどういうことなのかというと、動物の本来というのは括弧つきですけども、自然そのものではないので、制限された環境の中で、動物なりの振る舞いをできるようにしてあげよう。それを見ることによって動物を理解しましょう、あるいは動物と環境とのかわりかどうなってるのか、そういうものを理解するようなことをしましょうということです。当然、それは展示そのものにもかかわってくるわけですね。おりの中にただ動物がいるというだけでは不十分で、演出の仕方にも大きくかわってくるわけですね。そういった動物と環境のかわりかということも重要なテーマになってくると考えられます。

ということで、下に書いてありますように、動物の理

解、自然環境の理解、そういったものを伝えていく、そういったメッセージを伝えていくのが動物園の役割で、それが「自然への窓口」だと言われるわけです。と同時に、そこに生活する動物にとって、今、お話ししてきたのは見る側にとっての視点ですけれども、そこに生活する動物の視点から考えれば、生活の質ということも考えなければいけないわけです。動物の生活を見せるんだ、行動を見せるんだという場合には、彼らの生活をよくしてあげなければいけない、つまり、それは動物福祉の向上を考えなければいけないんだということになるわけです。【スライド3】 【スライド4】



【スライド3】



【スライド4】



【スライド5】

そういった生活の質の向上、動物福祉の向上ということに関しては、具体的な方法としては環境エンリッチメントというものが考えられます。それにはさまざまな視点があるわけですが、それは後ほど具体的な発表があると思いますので、ここでは余り突っ込みませんが、具体的な方策として環境エンリッチメントがあるんだというふうに考えてください。

この環境エンリッチメントというのは、環境が持っている機能を強める、そういった働きをするものなんだということです。何か物を入れれば良いんだということではありません。当然、施設をつくりかえるお金がないから、なかなかエンリッチメントができないんだということ動物園の人は言ったりするわけですが、そういった施設をつくりかえてエンリッチメントをすること、もちろんそういったエンリッチメントもありますけれども、そうではなくて、日常のえさをやるという作業、その工夫を考えていくことも、エンリッチメントには非常に重要な側面になるわけです。そういうふうにハードばかりではなくてソフトの面もしっかり考えていく、しっかり工夫していく。それが動物の生活の質の向上を考えるということにつながるんだということになるわけです。【スライド5】



【スライド6】

ちょっとイメージを最初に持ってもらうために、いくつかの例をご紹介したいと思います。これは東山のチンパンジーですけども、去年の秋までは何も無い、昔ながらの展示場でした。そうすると、チンパンジーは、本来は樹上性の動物ですけども、木に登ったりするようなことができないので、地面の上に寝転がってぼっとしていることが多いわけです。それを少しでも機能を高めるといことで、立体的な機能を高めてあげましょうということを考えました。もちろん、ここにジャングルをつくれれば良いんですけども、ジャングルはつくることができないので、この場合は人工的なタワーをつくりました。動物にとっては必ずしも人工的であることが悪いことで

はなくて、むしろ機能をどういうふうに満たしてあげるかということが一番重要な点になるわけです。

実際、先ほどのようなタワーをつくってあげると、これは初めてタワーができて放飼場に放された日ですけれども、最初興奮してるわけですが、すぐにこういうふうに登り始める個体が出てきたり、あるいはもうロープを使ったり、台を使って走って、生き生きと、先ほど地面の上にひっくり返っていたような、何もすることがない生活を送ってた者が、こういったチンパンジーらしい、つまり樹上の生活を送れるようになったと。これはハードの面でのエンリッチメントになるわけです。【スライド6】



【スライド7】

次に、これは日本の例ではなくて、アメリカ、ニューヨークにあるブロンクス動物園の例でお話ししますが、ブロンクス動物園の、これはタイガーマウンテンというトラの展示です。非常に自然豊かな展示になっているわけですが、自然豊かだからトラがいい生活ができているのでは実はなくて、もちろん自然豊かな環境というものは重要なんですけども、その裏でキーパーの人たちは日々、こういうふうにあえさを隠したり、先ほどの肉の塊をワイヤーでつり上げたりして隠してるわけですね。

あるいは、これは血を入れて作ったゼリーです。あるいは、この作業はにおいを振りまいてるところです。いろいろなスパイスだとか香水だとか、そういったにおいをあちこちにつけて歩いている。それはトラが自分のテリトリーににおいをつけるというものを、疑似的に人がやっているわけです。そういうところに出てくると、トラは食べ物に興味を示したり、あるいは、今、マーキングしました。あれはにおいがついてるので、においに刺激を受けて、自分のにおいを今度、自分のテリトリーだぞというのでにおいをつけるわけですね。あるいは、爪研ぎをしてテリトリーのサインをつけるだとか、そういった彼らなりの行動がよく引き出される。これは決して緑豊かな自然があるからこういうことをやっているん

ではなくて、それだけではなくて、飼育係の人たちがあいつたいろいろなエンリッチメントと呼ばれる工夫をしているからです。お客さんの前でこういったマーキングをやってくると、お客さんは目の前でやってくれるので楽しいわけですね。動物にとっても刺激的だし、お客さんにとっても楽しいということがあると言えます。

【スライド7】



【スライド8】

これはゴリラですけども、地面を見てもらうとわかるように、たくさんえさが転がってます。えさをまき散らしてあります。これも飼育係の人がゴリラを放飼場に出す前にえさをまいたおかげです。ゴリラに探させるという作業をさせて食べさせる、こういったことも、先ほど言ったようにエンリッチメントになるわけです。

繰り返しになりますけれども、エンリッチメントというのは決して物を、何か大きな建物をつくるだとかハードをどうこうするというだけではなくて、日本では往々にしてそういうことを言われがちなんですけれども、決してそうではなくて、そういう面もあるけれども、日常の動物の管理というところでもさまざまな工夫ができるんだ。それは動物にとっていい面が当然あるわけですが、それだけではなくて、先ほどのトラの場面でもお見せしたように、見る側にとっても非常に楽しい面を引き出してくれる、そういった工夫にもなる。そういう意味で、動物園というのはただ動物を見せるのではなくて、動物の振る舞いを見せる、生活を見せる、環境とのつながりを見せる、そういった役割を持たなければいけない。そういうことを考えると、エンリッチメントというのは非常に重要な管理技法になると考えられます。【スライド8】

ということで、具体的にどういうふうを考えればいいのかということ、これから3人の方に詳しくお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、最初にメイソンさんにお話をいただきたいと思います。



じゃあ、準備してる間に、簡単にですけども、メイソンさんの御略歴というか、ご紹介をいたします。

メイソンさんはイギリスで長い間研究されて、現在はカナダで研究されています。ネイチャーとかサイエンスといった非常に一流雑誌に、動物の福祉だとかエンリッチメントに関する論文を数多く書かれている、非常に若手ではありますが注目されている研究者です。そういう意味では、こういった問題に対する世界的な第一人者だということになります。